

2011

介護福祉士国家試験 過去問解説集

介護福祉士国家試験受験対策研究会 編集

第20回
—
第22回
全問完全
解説



解き方がわかる! 過去問題集の定番

- 正確で、ていねいな解説
- 出題傾向、対策の立て方がわかる
- 重要項目をより覚えやすく

2011

介護福祉士国家試験 過去問解説集

介護福祉士国家試験受験対策研究会 編集

第20回
第22回
全問完全
解説

常州大学图书馆
藏书章

中央法規

2011介護福祉士国家試験過去問解説集 第20回—第22回全問完全解説

2010年5月25日 発行

編 集 ● 介護福祉士国家試験受験対策研究会
発 行 者 ● 荘村明彦
発 行 所 ● 中央法規出版株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4
販売 TEL 03-3379-3861 FAX 03-5358-3719
編集 TEL 03-3379-3784 FAX 03-5351-7855
<http://www.chuohoki.co.jp/>

印刷・製本 ● 株式会社太洋社
装幀 ● 株式会社ジャパンマテリアル
本文デザイン ● K I S 有限会社

ISBN978-4-8058-3319-3

定価はカバーに表示してあります。落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

はじめに

1987（昭和 62）年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定されて以来 20 年あまりが経過しました。その間、わが国で初めての福祉関係専門職の国家資格として誕生した介護福祉士も、介護保険法において、その資格名が明記されるまでになりました。

近年では、介護・福祉ニーズの多様化・高度化に伴って、介護福祉士の専門職としての役割はますます高まっており、より質の高い介護サービスの提供が求められています。

そのため、介護福祉士の養成課程（教育内容の充実等）や資格取得方法の見直しを含む「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正法が 2007（平成 19）年 12 月 5 日に公布され、定義規定や義務規定が見直される等、介護福祉士の資質の向上を図るための改革が進められています。

本書は、第 20 回から本年 1 月の第 22 回の介護福祉士国家試験の筆記および実技試験の問題を解説したものです。単に問題に対する解答を示すだけでなく、その解答にいたるまでのプロセスを重視し、一つひとつの選択肢に丁寧にわかりやすい解説をしています。

特に、13 の試験科目ごとに「科目別ポイント」をまとめ、過去の出題傾向や第 22 回の特徴などを示しているほか、問題ごとに「学習のポイント」を掲載して今後の学習を進めるうえでの重要事項を紹介しています。

また、事例問題については、「事例問題を解くにあたって」において、事例の概要をつかむためのポイントを整理しています。さらには、実技試験についても、イラストを用いた詳細な解説をしていますので、まさに介護福祉士国家試験の全体を網羅した 1 冊といえます。

なお、本書は過去 3 年分の試験問題を収載していますので、出題された年度以降に改正された部分等については解説の内容を必要に応じて更新しています（解答・解説が現行の内容にそぐわない箇所については注書をつけています）。

受験対策において、過去問の学習と分析は基本中の基本です。

本書が介護福祉士をめざす多くの方々に有効に活用され、一人でも多くの方が合格を勝ち取られることを心より願っています。

2010 年 4 月

介護福祉士国家試験受験対策研究会

2011

介護福祉士国家試験 過去問解説集

第20回
第22回
全問完全
解説

C O N T E N T S

はじめに	1
介護福祉士国家試験について	4
受験にあたって	6
注意事項	8
合格基準	10
本書の使い方	11
筆記試験	
社会福祉概論(問題1～8)	13
老人福祉論(問題9～18)	39
障害者福祉論(問題19～22)	71
リハビリテーション論(問題23～26)	85
社会福祉援助技術(演習を含む。)(問題27～34)	99
レクリエーション活動援助法(問題35～40)	129
老人・障害者の心理(問題41～48)	153
家政学概論(問題49～56)	179
医学一般(問題57～68)	205
精神保健(問題69～72)	243
介護概論(問題73～80)	257
介護技術(問題81～100)	283
形態別介護技術(問題101～120)	355
実技試験	427
索引	443

介護福祉士国家試験について

◎国家試験の概要

国家試験は、毎年1月下旬に筆記試験、3月上旬に実技試験が実施されます。なお、「介護技術講習」を受講し、修了した人は申請により実技試験が免除されます（講習修了後、引き続き行われる3回の実技試験まで）。

●筆記試験

・科目別出題数

筆記試験は次の13科目に分かれており、出題数は全120問です。試験は、午前・午後に分かれ、マークシート方式で行われます。

・出題形式

出題の形式は、五つの選択肢のなかから「正しいもの（適切なもの）」「誤っているもの（適切でないもの）」を一つ選ぶものや、「正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいもの」を選ぶものなど、さまざまな形式がとられます。

国家試験（筆記試験）の科目別出題数（第22回国家試験を参考）

試験時間	試験科目	出題数	
			うち事例問題*
午前問題 10時～11時35分(95分)	社会福祉概論	8	
	老人福祉論	10	
	障害者福祉論	4	
	リハビリテーション論	4	
	社会福祉援助技術(演習を含む。)	8	1(3)
	レクリエーション活動援助法	6	1(3)
	老人・障害者の心理	8	
	家政学概論	8	
	小 計	56	2(6)
午後問題 13時30分～15時25分(115分)	医学一般	12	
	精神保健	4	
	介護概論	8	
	介護技術	20	3(9)
	形態別介護技術	20	3(9)
	小 計	64	6(18)
	合 計	120	8(24)

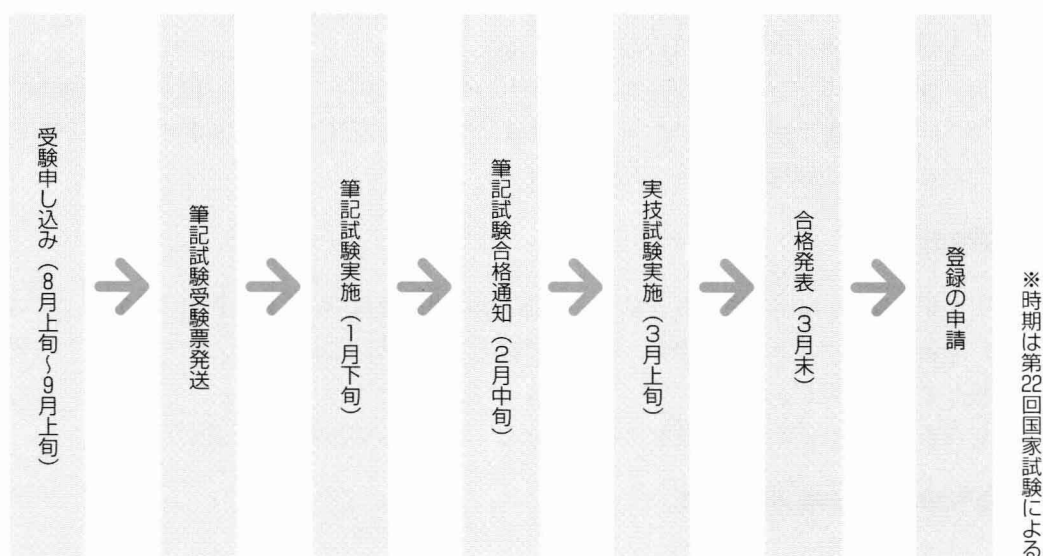
*事例問題は1事例につき3問の出題

●実技試験

筆記試験に合格した人は、次に実技試験を受験することになります（ただし「介護技術講習」を受講し、修了した人は免除されます）。この試験は、介護等に関する専門的技能を問うものです。

課題は1題で、あらかじめ10分程度の待機時間内に渡されます。試験時間は5分以内となっています。

申し込みから登録までの流れ（実技試験受験の場合）



◎受験手続きについて

試験の実施に関する事務は、指定試験機関である財団法人社会福祉振興・試験センターが行います。受験者は、試験センターから「受験の手引」を取り寄せ、8月上旬～9月上旬の間に受験の申し込みを行います。

財団法人社会福祉振興・試験センター

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目5番6号 SEMPOS ビル

TEL 03-3486-7559（試験案内専用番号）

ホームページ <http://www.sssc.or.jp/>

受験にあたって



◎受験準備について

筆記試験の科目は、午前・午後で合わせて13科目にわたり、介護福祉士という国家資格として必要な知識が試されます。社会福祉概論や老人福祉論をはじめとした社会福祉の理論系科目から、家政学系、医学とその近接領域の科目、心理学、レクリエーションや介護系科目まで、広範囲にわたって介護福祉士養成施設の教育水準に合わせた問題が出題されます。

国家試験を受験される方は、介護現場での一定の実務経験はありますが、社会福祉の理論的学習の経験の少ない方が大部分であると思われますので、これらの学習に力を入れていただきたいと思います。また、介護技術等の問題についても、単なる日常業務の経験によるものではない、基本に立ち返った正しい技術の学習が必要です。

また、筆記試験のなかには、問題の分量そのものが多いものもあります。限られた時間内で効率よく、かつ正確に解答を導き出すには、まず、問題文を正確に読み、解答として何が求められているのかを的確に把握することが大切です。

◎学習の仕方

学習の仕方は人によってさまざまです。科目ごとに出版されている介護福祉士養成カリキュラムに準拠したテキストでの学習や、過去の国家試験の出題傾向を分析したワークブックなどを活用してもよいでしょう。

大切なことは、自分の弱点を確認するためにも、繰り返し学習することです。

◎筆記試験当日の心構えについて

☆時間に余裕をもつ

受験の要項が発表され、受験手続きを経た後は、時間があれば受験会場の下見をしておくといよいでしょう。交通機関の種類と所要時間を確かめ、試験当日は余裕をもって会場に到着するようにします。

☆普段のリズムを大切に

試験前夜から試験当日は、緊張のピークに達することでしょう。当日までにいかに日常生活のリズムを維持し、体調をベスト・コンディションに保つかが、日頃の学習成果を最大限に発揮することにつながると思います。

☆受験会場の環境に備える

受験票の受験番号を再確認し、指定された会場に入り、席に着きます。大学の教室等の会場の場合、時計がなかったり、机の位置により暖房の効き具合が異なる場合がありますので、寒暖を調整でき、必要に応じて重ね着できる服装がよいと思います。

☆マークシートの記入は確実に

マークシート方式の解答は、解答用紙に鉛筆で確実に該当箇所をマークします。鉛筆は3～4本用意し、芯をあまりとがらせずに削り、先が丸くなったらこまめに取り替えます。もし解答を訂正する場合には、なるべく新しいプラスチック消しゴムで確実に消した後、新しい選択肢番号をマークします。また、鉛筆が薄かったり、マークする部分にムラがあると、本来正解であったとしても機械が正確に読み取れず、点数がつかないことも考えられます。また、マークする記入欄の番号がずれている場合も、機械は容赦してくれません。解答がすぐに導き出せず、1問飛ばして次の問題に取り掛かり、その際、解答用紙の問題番号を確認せずに空けておくべきところを続けてマークしてしまい、全問を終えた段階で気づくといった方が多くみられます。落ち着いて問題番号を確認し、該当部分を確実にマークすることを心がけましょう。

☆解ける問題から取りかかる

解答時間は、それほど余裕があるわけではありません。難しい問題があっても、いつまでもそこで時間を割かず、とりあえずどこかにマークをしておき、先の問題に進み、もし時間が余ったら、その問題に戻ってじっくりと考えるようにしましょう。

◎実技試験について

☆落ち着いて課題に目を通します

受験者は、会場で介護に適した服装に着替えますが、動きやすく、派手になりすぎない、試験委員により印象を与える服装を心がけましょう。なお、控え室では他の受験者との会話は慎みましょう。待機室に案内され、課題が渡されます。10分程度の待機時間内に、課題を熟読しておきます。

☆要介護者への配慮を忘れずに

試験室に案内されたら、指示に従い受験票を渡し、試験委員の「始めてください」の指示を待って実技を開始します。実技は、安全、安楽、自立を基本とし、要介護者（モデル）の人格を尊重し、絶えず言葉かけを忘れず、何をするのかを説明し、自己決定を確認してから動作に移るようにしましょう。笑顔を絶やさず、要介護者（モデル）との会話は、試験委員にはっきり聞き取れる声で話しましょう。

☆挨拶はしっかりと

制限時間内に課題を終え、試験委員に「終わりました」と告げ、指示に従って試験委員に挨拶し退室します。

注意事項



1 受験番号等の記入方法

はじめに、解答用紙に氏名を記入し、男女のいずれかを○で囲んでください。次に、右側の一番上の欄に受験番号を記入し、その下のマークシートの欄には、受験番号の英字及び数字に対応する○を、次表の例にならって塗りつぶしてください。

毎回、何人かの方に記入もれがあります。氏名の記入もれや、マークの塗りまちがいがあると、採点できない場合がありますので十分注意してください。

(例) 受験番号 K 0 1 0 - 2 3 4 5 6 の場合

介護福祉士国家試験 解答用紙

氏 名	福 祉 太 郎
性 別	○男・女

	K	0	1	0	-	2	3	4	5	6
受 験 番 号	●	●	○	●	●	○	○	○	○	○
	①	●	①		①	①	①	①	①	①
	②	②	②		●	②	②	②	②	②
	③	③	③		③	●	③	③	③	③
	④	④	④		④	④	●	④	④	④
	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤	⑤	●	⑤	⑤
	⑥	⑥	⑥		⑥	⑥	⑥	⑥	●	⑥
	⑦	⑦	⑦		⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
	⑧	⑧	⑧		⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨		⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

(注意) この場合、0 も必ず塗りつぶしてください。

2 午前の試験問題数は56問で、解答時間は1時間35分です。

午後の試験問題数は64問で、解答時間は1時間55分です。

3 解答方法

(1) 各問題には1から5まで五つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを一つ選び、次の例にならって解答用紙に解答してください。

(次ページに続く)

〔例〕 問題 201 次のうち、県庁所在地でない市を一つ選びなさい。

- 1 青森市
- 2 仙台市
- 3 川崎市
- 4 高松市
- 5 福岡市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ☐1 ☐2 ☒3 ☐4 ☐5 のうち、☒3 を塗りつぶして、

問題 201 ☐1 ☐2 ☒3 ☐4 ☐5 としてください。

- (2) 採点は、光学式読取装置によって行いますので、解答用紙への解答は、鉛筆を使用し、☐の外にはみださないように濃く塗りつぶしてください。

良い解答の例……………☒

悪い解答の例……………☒ ☒ ☒ ☒ ☒

(このような場合は、正答であっても)
解答したことになりません。

- (3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、☒のような消し方などをした場合は、訂正又は解答したことになりませんので注意してください。

また、消しゴムのカスが残らないように注意してください。

- (4) 1問に二つ以上解答したときは、誤りになります。
- (5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないよう特に注意してください。

4 その他の注意事項

- (1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。
- (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

合格基準



1 筆記試験の合格基準

次の二つの条件を満たした者が筆記試験の合格者となります。

ア 問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者（第22回国家試験では、総得点120点に対し、得点75点以上の者）。

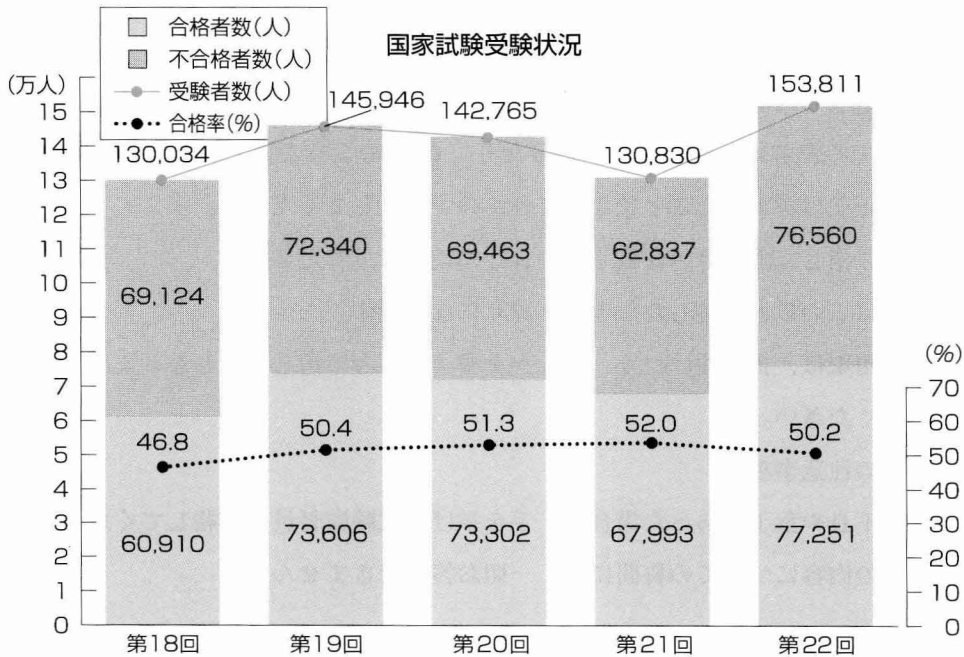
イ **ア**を満たした者のうち、以下の「12科目群」すべてにおいて得点があった者。

①社会福祉概論 ②老人福祉論 ③障害者福祉論、リハビリテーション論 ④社会福祉援助技術（演習を含む。） ⑤老人・障害者の心理 ⑥家政学概論、レクリエーション活動援助法 ⑦医学一般、精神保健 ⑧介護概論 ⑨介護技術（一問一答問題） ⑩介護技術（事例問題） ⑪形態別介護技術（一問一答問題） ⑫形態別介護技術（事例問題）

（注）配点は、1問1点の120点満点である。

2 実技試験の合格基準

筆記試験の合格者のうち、課題の総得点の60%程度を基準として、課題の難易度で補正した点数以上の得点の者が実技試験の合格者となります（第22回国家試験では、総得点100点に対し、得点53.33点以上の者）。



本書の使い方

科目別ポイント

各科目の冒頭に収載しています。

科目別ポイント

● I 国家試験の出題傾向

過去3年間にわたる社会福祉概論の出題については、その傾向に大きな変化はみられず、主として社会福祉の歴史や運営実施体制および公的扶助・社会保障分野から幅広く出題されている。その中でも、特に重要なポイントとしては、現代社会と社会福祉の意義（社会福祉の理念、社会福祉の歴史、社会福祉貢献者の実績）、社会福祉の法体系と運営組織（社会福祉関係各法、社会福祉行政と費用負担、社会福祉の機関・施設の理解）、社会保障及び関連制度の概要（利用者保護や苦情解決制度、社会保障関連制度）、社会福祉援助技術の基本および福祉専門職の基礎的理解があげられる。出題は広範囲に及び、かつ、かなり細かい部分まで問われている。テキストや参考図書等を用いて最近の社会福祉をめぐる動向にも着目しておきたい。

● II 第22回の試験問題の特徴

第22回の試験問題の特徴について、以下にまとめてみる。問題1は2000（平成12）年の社会福祉事業法等改正に関して、問題2は生活保護と介護に関して、問題3は社会福祉法人に関して、問題4は社会福祉におけるサービス等の提供方法に関して、問題5は社会保障給付費に関して、問題6は市町村が保険者となる国民健康保険制度に関して、問題7は福祉・介護サービスの人材確保に関して、問題8は2007（平成19）年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正の内容に関して出題されている。出題傾向そのものについて大きな変化はみられないが、今回は介護保険制度の理解および社会福祉がどのような変遷をたどり利用者主体のサービスを追求してきたのかに着目して出題されている。また、出題の範囲についても、過去に出題されたことのあるものから最近の法制度改正等に関するものまで幅広い。

● III 対策

社会福祉概論で学ぶ内容は非常に広範囲である。したがって、日頃からテキスト等に目を通すようにし、各種自書および模擬問題集等にも目を配りながら全体的に学習することが効果的である。さらに、過去に出題された問題を研究して、なぜその問題が出されたのかについて自分なりに振り返ってみることも有効である。そして、少なくとも過去3年間に出了きた国家試験問題については、解答に至るまでの根拠を明らかにしておきたい。また、法制度の改正については、その概要のみならず、改正に至る経緯とともに理解を深めておく必要がある。試験本番では限られた時間内で解答することになるため、受験前に各種模擬試験を受け、解答の時間配分を把握しておけば、試験当日も余裕をもって臨むことができるだろう。社会福祉概論を学ぶことは、社会福祉の理念や諸制度および歴史を理解することになり、それらは利用者の利益に結びついていくものである。福祉に関する制度や仕組みが他の制度等とどう関連しているのか、それらが福祉サービスの実践の場にどのように関係しているのかを注意深く学びとることが重要である。そして、これらの学びを通し、介護福祉士を目指す者として、地域での生活を総合的に支援するための全体的なシステムを理解してほしい。常に福祉サービスの利用者の立場を考え、日頃から目的意識を明確にして取り組むことで、さまざまな情報をより確実な知識として蓄えていくことが大切である。

過去3年間の出題実績をふまえて、各科目の出題傾向を解説しています。

国家試験の出題傾向

国家試験をふまえた各科目の学習を進めるうえで押さえておきたいポイントを、を中心に紹介しています。

対策

第22回の試験問題の特徴
2010年に行われた第22回試験の各科目内容について簡潔にまとめています。

解 説

試験問題

本試験の問題文をそのまま掲載しています。

試験回数

第22回

第22回

第22回

問題 5 社会保障給付費に関する次の記述の空欄A、B、Cに該当する語句の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

平成12年度と平成18年度の我が国の制度別社会保障給付費の構成比を比較すると、
 〔A〕は平成12年度50.1%、平成18年度51.4%となっており、最も高い割合で推移している。次いで高い割合を示している〔B〕も18.7%から18.6%とほぼ同水準で推移している。また、老人保健は、13.4%から11.6%とその割合をわずかに低下させている。一方〔C〕は、4.2%から6.7%と、その構成比を増加させている。

A B C

- 1 年金保険——医療保険——介護保険
- 2 年金保険——介護保険——医療保険
- 3 介護保険——年金保険——医療保険
- 4 医療保険——介護保険——年金保険
- 5 医療保険——年金保険——介護保険

解 説

平成12年度と平成18年度の我が国の制度別社会保障給付費の構成比を比較する設問である。
 我が国の社会保障給付費は、平成12年度78兆1191億800万円、平成15年度84兆2581億9500万円、平成18年度89兆1097億9400万円と増加を続けている。

平成12年度の社会保障給付費とその構成内訳は、年金保険が39兆1729億1300万円(50.1%)、医療保険が14兆5726億9900万円(18.7%)、老人保健が10兆4474億1900万円(13.4%)、介護保険が3兆2521億1400万円(4.2%)となっている。

また、平成18年度の社会保障給付費とその構成内訳は、年金保険が45兆7715億5600万円(51.4%)、医療保険が16兆5343億2800万円(18.6%)、老人保健が10兆3787億4400万円(11.6%)、介護保険が5兆9997億9800万円(6.7%)となっている。

そこでA、B、Cの組み合わせにある年金保険、医療保険、介護保険の給付費のうち、平成12年度が50.1%、平成18年度が51.4%と最も高い割合で推移しているものは年金保険である。

次いで高い給付割合を示すのが医療保険で、18.7%から18.6%とほぼ同水準で推移している。そして、4.2%から6.7%と構成比が増加しているのは介護保険となる。

① A = 年金保険

B = 医療保険

C = 介護保険

(注) 平成19年度は、年金保険が46兆7993億5500万円(51.2%)、医療保険が17兆4235億7200万円(19.1%)、老人保健が10兆3720億4100万円(11.3%)、介護保険が6兆3053億200万円(6.9%)である。

解答 1

学習のポイント ● 社会保障制度は、国民の生活と社会経済の安定に欠かせない制度のため、基本的な理解が求められるが、覚えにくい箇所もある。社会保障給付費の約半分を占めるのは年金保険で、次いで医療保険、老人保健、介護保険と、大まかな構成比を理解しておくとうい。

学習のポイント

この出題分野において、特に押さえておきたいポイントの解説と効果的な学習方法についてのアドバイスを紹介しています。※第22回試験のみ

解 説

選択肢ごとに記述が正しいかどうかを○×で示し、解答を導くための根拠を説明しています。

色文字

重要な語句を色文字にしました。

解 答

財団法人社会福祉振興・試験センター公表の正答に基づき正答番号を示しています。

旧マーク

出題当時は適切な内容でしたが、その後の社会情勢の変化や制度改正などにより、現在では内容的に古くなったため、解くことができなくなつた問題や選択肢に付しています。

注

出題当時とは異なつてきた事項などについては、最新の情報を適宜補正しています。

社会福祉概論

社会福祉概論

科目別ポイント.....14

第22回(問題1～8).....15

第21回(問題1～8).....23

第20回(問題1～8).....31

I 国家試験の出題傾向

過去3年間にわたる社会福祉概論の出題については、その傾向に大きな変化はみられず、主として社会福祉の歴史や運営実施体制および公的扶助・社会保障分野から幅広く出題されている。その中でも、特に重要なポイントとしては、現代社会と社会福祉の意義（社会福祉の理念、社会福祉の歴史、社会福祉貢献者の実績）、社会福祉の法体系と運営組織（社会福祉関係各法、社会福祉行財政と費用負担、社会福祉の機関・施設の理解）、社会保障及び関連制度の概要（利用者保護や苦情解決制度、社会保障関連制度）、社会福祉援助技術の基本および福祉専門職の基礎的理解があげられる。出題は広範囲に及び、かつ、かなり細かい部分まで問われている。テキストや参考図書等を用いて最近の社会福祉をめぐる動向にも着目しておきたい。

II 第22回の試験問題の特徴

第22回の試験問題の特徴について、以下にまとめてみる。問題1は2000（平成12）年の社会福祉事業法等改正に関して、問題2は生活保護と介護に関して、問題3は社会福祉法人に関して、問題4は社会福祉におけるサービス等の提供方法に関して、問題5は社会保障給付費に関して、問題6は市町村が保険者となる国民健康保険制度に関して、問題7は福祉・介護サービスの人材確保に関して、問題8は2007（平成19）年の社会福祉士及び介護福祉士法の改正の内容に関して出題されている。出題傾向そのものについて大きな変化はみられないが、今回は介護保険制度の理解および社会福祉がどのような変遷をたどり利用者主体のサービスを追求してきたのかに着目して出題されている。また、出題の範囲についても、過去に出題されたことのあるものから最近の法制度改正等に関するものまで幅広い。

III 対策

社会福祉概論で学ぶ内容は非常に広範囲である。したがって、日頃からテキスト等に目を通すようにし、各種白書および模擬問題集等にも目を配りながら全体的に学習することが効果的である。さらに、過去に出題された問題を研究して、なぜその問題が出されたのかについて自分なりに振り返ってみることも有効である。そして、少なくとも過去3年間に出了た国家試験問題については、解答に至るまでの根拠を明らかにしておきたい。また、法制度の改正については、その概要のみならず、改正に至る経緯とともに理解を深めておく必要がある。試験本番では限られた時間内で解答することになるため、受験前に各種模擬試験を受け、解答の時間配分を把握しておけば、試験当日も余裕をもって臨むことができるだろう。社会福祉概論を学ぶことは、社会福祉の理念や諸制度および歴史を理解することになり、それらは利用者の利益に結びついていくものである。福祉に関する制度や仕組みが他の制度等とどう関連しているのか、それらが福祉サービスの実践の場にどのように関係しているのかを注意深く学びとることが重要である。そして、これらの学びを通し、介護福祉士を目指す者として、地域での生活を総合的に支援するための全体的なシステムを理解してほしい。常に福祉サービスの利用者の立場を考え、日頃から目的意識を明確にして取り組むことで、さまざまな情報をより確実な知識として蓄えていくことが大切である。